

## 令和 4 年度横浜市スポーツ推進計画の進捗状況

## 1 第 3 期横浜市スポーツ推進計画の進捗状況

## (1) 令和 4 年度実績

資料2 別紙のとおり

## (2) 主な進捗状況

| 目標1 スポーツを通じた健康増進    |  |
|---------------------|--|
| 取組内容                | <p>【取組1、2、3】</p> <p>「横浜マラソン 2022」(参加者:22,457 人)の開催など、市民参加型スポーツイベントを開催したほか、子育て世代に向け親子ラグビー教室(全2回)や未就学児向けラグビー体験教室(5保育園)を実施し、スポーツを通じてWELL-BEINGを実現できるよう取組を進めました。</p> <p>【取組4】</p> <p>部活動の充実と教員の負担軽減の双方の面で効果が期待される部活動指導員の配置については、441 人の目標に対し延べ 741 人を配置しました。地域運動部活動推進事業(休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究)については、国からの委託を受け市内3校6部活で実施しました</p>   |
| 課題                  | <p>【取組1、2、3】</p> <p>市民参加型スポーツイベントを引き続き開催していくとともに、子どもから高齢者まで、誰もが気軽スポーツに親しめるイベント・プログラムの提供が必要と考えています。また、横浜市中期計画の基本戦略である「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を目指すためにも、子育てをしている親が気軽にスポーツに親しめる場や機会を提供していく必要があります。</p> <p>【取組4】</p> <p>部活動指導員については、人材の確保、研修の質の向上等が課題としてあげられます。地域運動部活動については、地域移行の複数モデルの創出や、受益者負担の考え方(公的な負担との整理)等が課題としてあげられます。</p> |
| 目標2 スポーツを通じた共生社会の実現 |  |
| 取組内容                | <p>【取組 11】</p> <p>横浜市スポーツ協会、横浜市リハビリテーション事業団及び各競技団体に協働してパラ陸上タイムトライアルやよこはまパラボウリング大会などのモデル事業を実施しました。</p> <p>【取組 11、12】</p> <p>ボッチャ等の簡単で誰でも楽しめる種目の体験会・交流会を8区で実施し、942 人の方に参加いただきました。ダイバーシティ&amp;インクルージョンの視点で誰もがスポーツに楽しめる場、きっかけを提供しました。</p>  |
| 課題                  | <p>【取組 11】</p> <p>パラ競技の普及に向けてパラスポーツのノウハウの取得や、競技団体による自立的な事業実施へつなげていくことが課題であるため、スポーツ協会やリハビリテーション事業団と引続き連携して事業展開していく必要があります。</p> <p>【取組 11、12】</p> <p>4年度の取組については、対象やエリアが限定的だったため、より幅広く普及啓発していくことが課題です。また、イベントの開催だけでなく、スポーツ実施率の向上等、いかに定着を図っていくかを検討していく必要があります。</p>  |

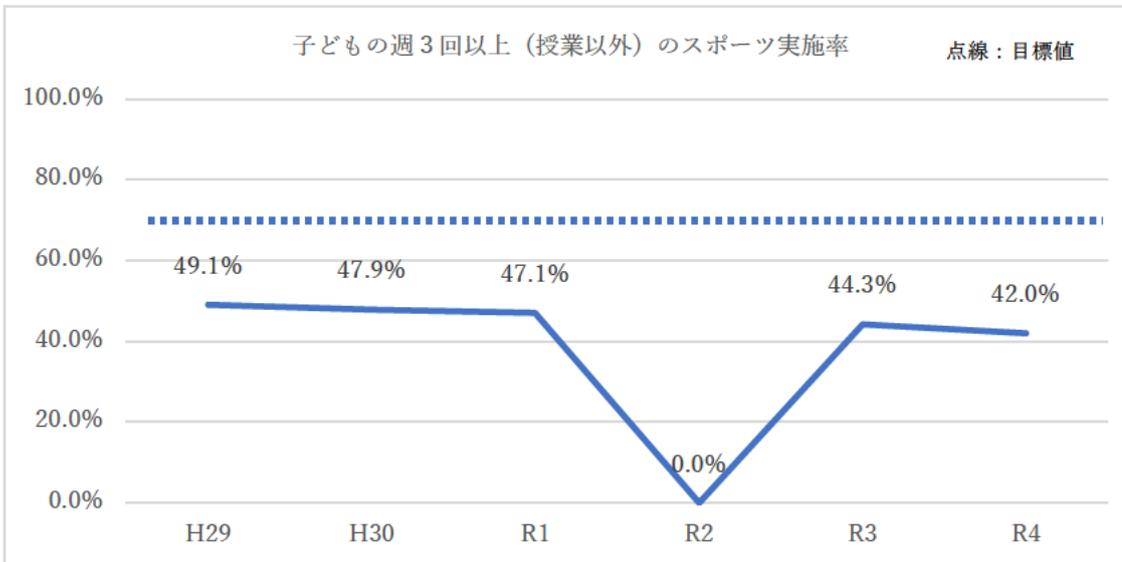
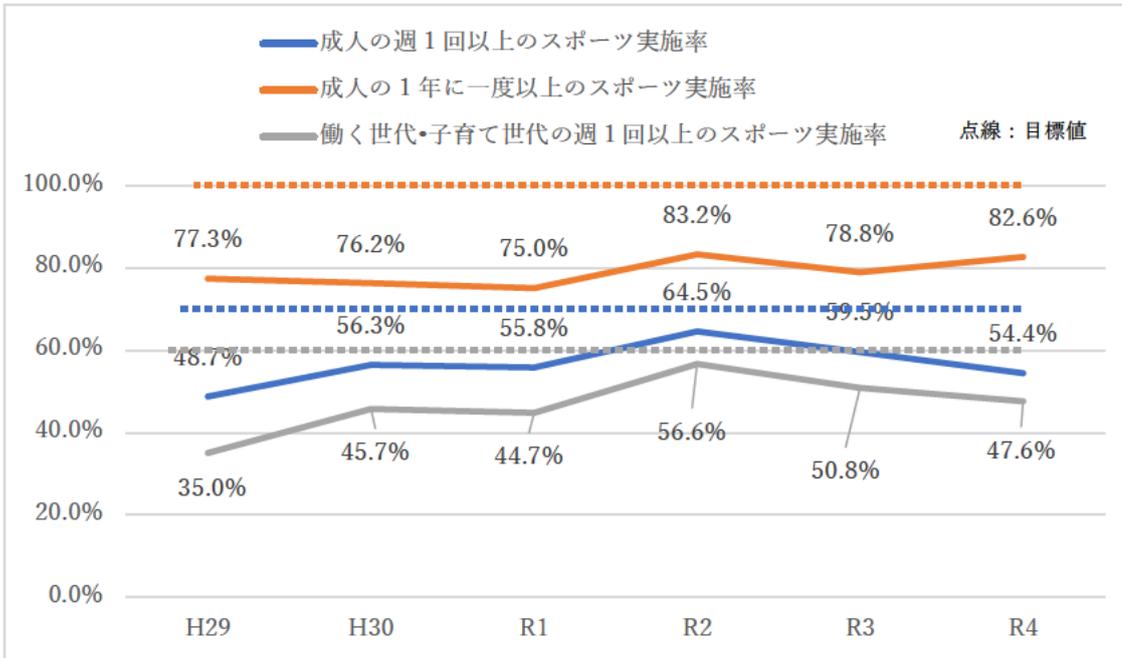
| 目標3 スポーツによる賑わいづくり |   |
|-------------------|---|
| 取組内容              | <p>【取組 19】<br/>大規模スポーツ施設を中核としたまちづくりとして、令和4年1月から横浜BUNTAIの施設建設工事を開始しました。</p> <p>【取組 22】<br/>「2022 ワールドトライアスロンシリーズ横浜大会」などの観戦型スポーツイベントを開催しましたが、令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のための制限があったことから、観客数はコロナ禍前の令和元年度の約60万人に対して、約38万人となりました。</p> |
| 課題                | <p>【取組 19】<br/>横浜BUNTAIは令和6年4月に開館予定です。先行して開館した横浜武道館と合わせて、横浜スタジアムや旧市庁舎跡地の取組と連携し、大規模スポーツ施設を中核としたまちづくりを進めていく必要があります。</p> <p>【取組 22】<br/>大会開催にあたって、来訪者の回遊性向上に取り組み、地域・経済の活性化につなげる必要があります。</p>                                  |

## 2 第3期横浜市スポーツ推進計画の指標と目標値の達成状況

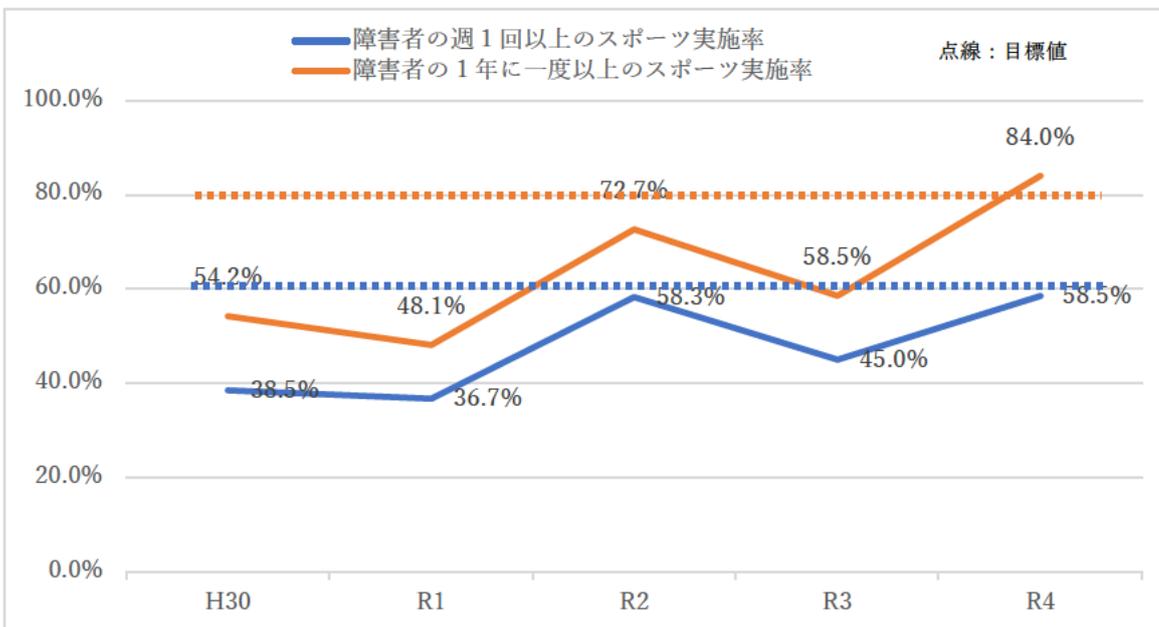
| 指標                                 | H29     | H30     | R1      | R2      | R3      | R4    | 目標値       |
|------------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|-----------|
| (1)成人の週1回以上のスポーツ実施率                | 48.7%   | 56.3%   | 55.8%   | 64.5%   | 59.5%   | 54.4% | 70%以上     |
| (2)成人の1年に一度以上のスポーツ実施率              | 77.3%   | 76.2%   | 75.0%   | 83.2%   | 78.8%   | 82.6% | 100%に近づける |
| (3)スポーツが好きな人の割合                    | 65.2%   | 66.3%   | 66.1%   | 72.0%   | 66.3%   | 72.4% | 75%以上     |
| (4)多様な人と関わり、運動・スポーツを楽しみたいと思う子どもの割合 | -       | -       | -       | -       | -       | 85.0% | 70%以上     |
| (5)子どもの週3回以上(授業以外)のスポーツ実施率※1       | 49.1%   | 47.9%   | 47.1%   | -       | 44.3%   | 42.0% | 50%以上     |
| (6)働く世代・子育て世代の週1回以上のスポーツ実施率        | 35.0%   | 45.7%   | 44.7%   | 56.6%   | 50.8%   | 47.6% | 60%以上     |
| (7)障害者の週1回以上のスポーツ実施率               | -       | 38.5%   | 36.7%   | 58.3%   | 45.0%   | 58.5% | 65%以上     |
| (8)障害者の1年に一度以上のスポーツ実施率             | -       | 54.2%   | 48.1%   | 72.7%   | 58.5%   | 84.0% | 80%以上     |
| (9)スポーツボランティア参加率                   | 6.6%    | 7.2%    | 6.1%    | 7.0%    | 3.7%    | 8.0%  | 10%以上     |
| (10)市内でのスポーツイベント直接観戦率※2            | (40.3%) | (42.3%) | (45.2%) | (39.0%) | (16.2%) | 25.9% | 30%以上     |
| (11)横浜市はスポーツが盛んであると思う市民の割合         | -       | -       | -       | -       | -       | 53.0% | 70%以上     |

※1 R2は調査未実施

※2 R3まではトップスポーツ観戦率のため参考



※R2は調査未実施



#### 4 今後の取組の方向性

| 目標1 スポーツを通じた健康増進 |  |
|------------------|--|
| 方向性              | <p><b>【取組3】</b></p> <p>スポーツ実施率の低い子育て世代のスポーツ実施率の向上に向けて、親と子を対象にしたプログラムや、民間企業と連携した、託児付きスポーツイベントの開催など、親子ともにスポーツを楽しめるプログラムを、エリアを拡大して各地域で展開していけるよう一層充実していきます。</p> <p><b>【取組4】</b></p> <p>国の部活動改革推進に合わせて、本市においても、部活動指導員の配置や部活動の地域移行の実証研究を進め、引き続き、子どものスポーツに関わる機会の確保に努めていきます。</p> |

| 目標2 スポーツを通じた共生社会の実現 |   |
|---------------------|---|
| 方向性                 | <p><b>【取組 11】</b></p> <p>パラスポーツのさらなる普及に向けて、横浜市スポーツ協会と横浜市リハビリテーション事業団との連携協定を最大限活かし、各競技団体でのモデル事業の実施、ノウハウの蓄積、自立的な運営と、取組をステップアップさせていきます。</p> <p><b>【取組 11、12】</b></p> <p>インクルーシブスポーツについては、誰でも楽しめる種目の体験会、交流会だけでなく、それをきっかけとして、その後のスポーツ習慣の定着や地域コミュニティの形成につながるような取組を実施するなど、事業を拡大していきます。</p> |

| 目標3 スポーツによる賑わいづくり |   |
|-------------------|---|
| 方向性               | <p><b>【取組 19】</b></p> <p>横浜BUNTAIの令和6年4月開館(予定)に向けて、積極的に各種イベントを誘致します。また、開館記念イベントでは、周辺エリアの民間事業者と連携し、エリア一体的なイベントとするほか、他のイベントとも連携し、より広いエリアでの回遊性も高めます。</p> <p><b>【取組 18、19、20、22】</b></p> <p>トップスポーツチームとの連携や、にぎわいスポーツ文化局への組織再編を好機として、スポーツイベントと他の大規模イベントとの連携等により、来街者の市内回遊促進の取組を充実させ、まちの賑わいにつなげます。</p> |

| 取組番号          | 取組名称               | 3つの目標への対       |   | 取組内容   | 所管          |            | 関連事業                         | 令和4年度取組状況   | 課題等                                    | 自己評価   |                  |         |     |          |              |     |           |         |     |        |           |      |          |               |        |           |   |        |            |  |   |
|---------------|--------------------|----------------|---|--|-------------|------------|------------------------------|---|--|--------|------------------|---------|-----|----------|--------------|-----|-----------|---------|-----|--------|-----------|------|----------|---------------|--------|-----------|---|--------|------------|--|---|
|               |                    | 健康増            | 共生社   |  | 賑わい         | 局          | 課                            |   |  |        | 事業名称<br>(事業計画書上) |         |     |          |              |     |           |         |     |        |           |      |          |               |        |           |   |        |            |  |   |
| 1             | 健康づくりに気軽に取り組む機会の充実 | ○              | ○   | <p>地域スポーツ・レクリエーション団体やスポーツ推進委員と連携し、子どもから高齢者までが、初心者であっても楽しく、気軽に参加できるウォーキングイベントやさわやかスポーツの推進、スポーツ・レクリエーションフェスティバル等の活動を充実します。</p> <p>「健康横浜21」に基づき、生活習慣の改善や運動習慣の定着化など、市民の健康づくりを後押しする取組を進めます。特に、日常生活の中で楽しみながら健康づくりに取り組める「よこはまウォーキングポイント事業」などを活用し、企業等と連携した事業を充実するとともに、健康に関心がない人や関心があっても取り組めない人へのきっかけづくりや、健康行動の継続を支援します。</p>  | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課企画2 | 市民参加型スポーツイベント等開催事業           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「YOKOHAMAビーチスポーツフェスタ2022」(8/6, 8/7) : 1,342名参加</li> <li>・「横浜シーサイドトライアスロン大会」: 新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止</li> <li>・横浜市民スポーツ大会・横浜市民マスターズスポーツ大会: 38,760名参加</li> </ul>  | 子どもから高齢者まで、誰もが気軽スポーツに親しめるイベント・プログラムの実施 | ○      |                  |         |     |          |              |     |           |         |     |        |           |      |          |               |        |           |   |        |            |  |   |
|               |                    |                |   |  | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課企画1 | 地域スポーツ支援事業<br>(ヨコハマさわやかスポーツ) | <p>1 さわやかスポーツ普及活動</p> <table border="1"> <tr> <td>(1) 地区活動</td> <td>4,335回</td> <td>79,886人参加</td> </tr> <tr> <td>(2) 区大会</td> <td>34回</td> <td>3,073人参加</td> </tr> <tr> <td>(3) 区フェスティバル</td> <td>42回</td> <td>11,511人参加</td> </tr> <tr> <td>(4) 講習会</td> <td>25回</td> <td>551人参加</td> </tr> <tr> <td>(5) 普及委員会</td> <td>134回</td> <td>1,494人参加</td> </tr> <tr> <td>(6) その他(用具貸出)</td> <td>1,359回</td> <td>70,682人参加</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5,929回</td> <td>167,197人参加</td> </tr> </table> <p>2 各区活動の支援<br/>一般奨励金188,000円/1区 を交付</p> | (1) 地区活動                               | 4,335回 | 79,886人参加        | (2) 区大会 | 34回 | 3,073人参加 | (3) 区フェスティバル | 42回 | 11,511人参加 | (4) 講習会 | 25回 | 551人参加 | (5) 普及委員会 | 134回 | 1,494人参加 | (6) その他(用具貸出) | 1,359回 | 70,682人参加 | 計 | 5,929回 | 167,197人参加 | さわやかスポーツ普及委員の担い手不足をきっかけとする、さわやかスポーツの今後の方向性について、SC指定管理事業との連携案を含めて具体的に検討段階にあります。 | ○ |
|               |                    |                |   |  | (1) 地区活動    | 4,335回     | 79,886人参加                    |   |  |        |                  |         |     |          |              |     |           |         |     |        |           |      |          |               |        |           |   |        |            |  |   |
| (2) 区大会       | 34回                | 3,073人参加       |   |  |             |            |                              |   |  |        |                  |         |     |          |              |     |           |         |     |        |           |      |          |               |        |           |   |        |            |  |   |
| (3) 区フェスティバル  | 42回                | 11,511人参加      |   |  |             |            |                              |   |  |        |                  |         |     |          |              |     |           |         |     |        |           |      |          |               |        |           |   |        |            |  |   |
| (4) 講習会       | 25回                | 551人参加         |   |  |             |            |                              |   |  |        |                  |         |     |          |              |     |           |         |     |        |           |      |          |               |        |           |   |        |            |  |   |
| (5) 普及委員会     | 134回               | 1,494人参加       |   |  |             |            |                              |   |  |        |                  |         |     |          |              |     |           |         |     |        |           |      |          |               |        |           |   |        |            |  |   |
| (6) その他(用具貸出) | 1,359回             | 70,682人参加      |   |  |             |            |                              |   |  |        |                  |         |     |          |              |     |           |         |     |        |           |      |          |               |        |           |   |        |            |  |   |
| 計             | 5,929回             | 167,197人参加     |   |  |             |            |                              |   |  |        |                  |         |     |          |              |     |           |         |     |        |           |      |          |               |        |           |   |        |            |  |   |
| 健康福祉局         | 健康推進課              | よこはま健康スタイル推進事業 | <p>○よこはまウォーキングポイント事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・累計参加登録者数363,417人(参加者令和4年度新規参加者数: 11,732人)</li> <li>・フォトコンテストを実施(投稿数3つのテーマで15,606件)</li> <li>・参加者同士で任意のチームを組んで歩数を競うチーム対抗戦を実施(303チーム参加)</li> <li>・60%以上の方が事業参加後に1日の歩数が増加(令和4年度利用状況報告書より)</li> <li>・オンラインセミナー実施(3回)</li> <li>・アプリリニューアル(バイタルデータの入力、ウェアラブル端末との連携)</li> <li>・スポーツイベントでのブース出展2回                         <ul style="list-style-type: none"> <li>①スポーツ・レクリエーションフェスティバル2022(令和4年10月9日実施 新横浜公園)</li> <li>②第33回よこはまシティウォーク(令和5年3月21日実施 三ツ沢公園陸上競技場)</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩数計の長期間使用による経年故障や紛失の問合せが多くなっており、アプリへの誘導や歩数計再購入の案内等、サポートを強めていく必要がある。</li> <li>・アプリは歩数計に比べて機能が充実していることに加え、歩数計のように耐用年数による再購入の必要がなく継続しやすい仕組みのため、写真投稿や指定の期間内に目標歩数をクリアするミッションなどアプリならではの機能を活用した企画を行いながら、歩数計からアプリへの移行を推進する必要がある。</li> <li>・引き続き幅広い世代のウォーキングを通じた健康づくりを推進するため、新規参加を促進するとともに、継続参加したくなるような企画を連続的に打ち出す工夫が必要。</li> </ul> | ○           |            |                              |   |  |        |                  |         |     |          |              |     |           |         |     |        |           |      |          |               |        |           |   |        |            |  |   |

| 取組番号 | 取組名称                      | 3つの目標への対 |     | 取組内容  | 所管          |             | 関連事業<br>事業名称<br>(事業計画書上)  | 令和4年度取組状況   | 課題等   | 自己評価  |   |
|------|---------------------------|----------|-----|---|-------------|-------------|---|---|---|---|---|
|      |                           | 健康増      | 共生社 |   | 賑わい         | 局           |   |   |   |   | 課   |
| 2    | 日頃の成果を発揮するスポーツイベントの充実     | ○        |     | <p>市スポーツ協会等と連携し、横浜マラソン、市民大会・区民大会やビーチスポーツフェスタなど、日頃の練習の成果を発揮する機会となる市民参加型スポーツイベントを充実するとともに、初めて参加する人でも安全・安心に参加できる環境を整えます。</p> <p>本市にゆかりのある方で、スポーツ大会等において優秀な成績を収めた方やスポーツ振興に尽力した方を表彰し、市民のスポーツ意欲向上につなげます。</p>  | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課企画2  | <p>【表彰】</p> <p>横浜スポーツ表彰：193人・団体を表彰</p> <p>【再掲】</p> <p>市民参加型スポーツイベント等開催事業</p> <p>【再掲】</p> <p>・「YOKOHAMAビーチスポーツフェスタ2022」(8/6,8/7)：1,342名参加</p> <p>・「横浜シーサイドトライアスロン大会」：新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止</p> <p>・横浜市民スポーツ大会・横浜市民マスターズスポーツ大会：38,760名参加</p> | <p>【再掲】</p> <p>・子どもから高齢者まで、誰もが気軽スポーツに親しめるイベント・プログラムの提供が求められる。</p>                       | ○   |   |   |
|      |                           |          |     |   |             | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課トラマラ班  |   | 横浜マラソン開催事業  | <p>横浜マラソン2022</p> <p>開催期間：10月30日(日)</p> <p>参加人数：22,457人</p>   | <p>・大会参加者の確保</p> <p>・にぎわい創出の取組の推進、回遊性向上</p> <p>・大会の魅力向上</p> |
| 3    | 働く世代と子育て世代の親と子が楽しむスポーツの充実 | ○        | ○   | <p>働く世代のうち、特にスポーツ実施率の低い30～40代を対象に、企業で参加できるスポーツイベントを実施し、運動不足や生活習慣の改善につながる機会を提供します。イベント情報は、健康に関する企業向けメールマガジンも活用し発信します。</p> <p>子育て世代の親と子を対象に、乳幼児が体を動かして遊ぶ機会や、親子ふれあい体操など親子で一緒に参加できる各種運動プログラムを提供するとともに、保育所、幼稚園、地域子育て支援拠点等にスポーツ指導者等を派遣し、体を動かす楽しさを伝える事業を行います。さらに、子どもがいても親自身がスポーツを楽しめる環境を充実し、子育て世代の親と子それぞれを支援します。</p> | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課事業班  | <p>子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業</p> <p>【子育て世代のスポーツ活動支援事業】</p> <p>・親子ラグビー教室(全2回、76組155人参加)</p> <p>・未就学児向けラグビー体験教室(5保育園)</p>  | <p>・女性も参加しやすい内容の検討が必要。(親子ラグビー教室)</p> <p>・実施園数を増加させるため、さらなる内容の検討が必要。(未就学児向けラグビー体験教室)</p> | ○   |   |   |
|      |                           |          |     |   |             | 経済局         | 中小企業振興課   |   | <p>多様で柔軟な働き方・健康経営推進事業</p> <p>・横浜健康経営認証実績(今年度認証414事業所、横浜健康経営認証を有する市内事業所918事業所)</p> <p>・企業集積地における企業の健康経営の取組を支援する健康経営支援拠点の運営支援(市内3か所)</p> <p>・健康経営支援拠点でのセミナー開催：合計10回、参加者のべ603人</p> <p>・健康経営に取り組む市内事業所の離職率等の調査を実施</p> | <p>・健康経営の認知度向上</p> <p>・横浜健康経営認証の認知度向上</p> <p>・横浜健康経営認証への応募促進</p>  | ◎   |
|      |                           |          |     |   |             | 健康福祉局       | 健康推進課   |   | 健康経営企業応援事業(よこはま健康アクション事業)   | <p>・健康経営に取り組む企業を認証する横浜健康経営認証制度を運用(令和4年度は414事業所を認証)</p> <p>・認証事業所に対し、専門職派遣を行い、従業員向けの運動講座を実施</p> <p>・認証事業所に対し、体組成計、握力計、足指力測定器、長座体前屈計等を貸出</p> <p>・企業向けに健康情報を配信するメールマガジンで、運動に関する情報を配信</p> | <p>・健康経営に取り組む機運は高まりつつあるものの、市内企業、特に中小企業へは引き続きの普及啓発が必要です。</p> |

| 取組番号 | 取組名称                 | 3つの目標への対 |     |     | 取組内容  | 所管          |            | 関連事業<br>事業名称<br>(事業計画書上)           | 令和4年度取組状況   | 課題等   | 自己評価 |
|------|----------------------|----------|-----|-----|---|-------------|------------|------------------------------------|---|---|------|
|      |                      | 健康増      | 共生社 | 賑わい |   | 局           | 課          |                                    |   |   |      |
| 4    | 児童生徒がスポーツを楽しむ機会・場の充実 | ○        | ○   |     | <p>「横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座」修了者などを学校や地域にスポーツ指導者として派遣し、スポーツ教室の事業等を行うことで、運動やスポーツに多様に関わる機会を確保します。</p> <p>部活動指導員の配置は、部活動の充実と教員の負担軽減の双方の面で効果が期待されており、引き続き取組を進めます。また、国の「運動部活動の地域移行に関する検討会議」の提言を受け、本市における休日の運動部活動の地域移行に関する実践研究や本市の地域の特性等を踏まえ、学校と地域が連携・協働して、子どもたちにとって望ましいスポーツ環境の構築を進めます。</p> <p>児童・生徒の安全・安心なスポーツ環境を維持するため、学校施設の計画的かつ効果的な保全や空調設備を整備します。</p> | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課企画1 | 地域スポーツ支援事業<br>(子どもの体力向上事業)         | <p>児童が日常的に体を動かすことのできる環境づくりを支援するよう、小学校の授業や学校保健委員会の支援を中心とする事業を実施</p> <p>【実績】</p> <p>1 小・中学校50校と111回連携：7,044人参加</p> <p>2 その他地区イベント等と連携：536人参加</p>  | 費用対効果が低い点について、スポーツ協会と調整を行いながら、事業内容の検討が必要です。   | ○    |
|      |                      |          |     |     |   | 教育委員会事務局    | 教育課程推進室    | 健康・体力づくり推進事業                       | <p>・横浜市立小中学校体力・運動能力調査及び全国体力・運動能力調査を全市立小中学校にて実施した。</p> <p>・横浜市立小中学校体力・運動能力調査の分析チャートや実態調査の結果を活用した「健やかな体の育成プラン」を各校で作成し、実態に応じた取組の実践を行った。</p>  | <p>・運動やスポーツに取り組む小中学生の割合は、昨年度より上昇したが、コロナ禍前の令和元年度の水準までは回復していない。</p> <p>・「健やかな体の育成プラン」における、学校の実態に応じた計画の作成や目標の設定について、個別の分析を行い、各校の効果的な実践を支援する必要がある。</p>  | ○    |
|      |                      |          |     |     |   | 教育委員会事務局    | 小中学校企画課    | 学校体育振興事業<br>(オリンピック・パラリンピック教育関連経費) | <p>・オリンピック・パラリンピック教育推進校として10校(小8、中1、高1)を設置し、年間を通して、オリパラ教育を重点的に実施した。学校によるパラスポーツの体験、パラリンピアンを講師として招へいする等して、オリパラ教育の普及に努めた。推進校だけでなく多くの学校にオリパラ教育を広げるために、報告書の共有を行い、市立学校における令和5年度以降のオリパラ教育の推進継続を図る。</p> | <p>・オリパラ教育推進校の負担を軽減するために、教育委員会事務局としても関係局課や関係団体等と連携して、推進校が活用可能なオリパラ教育実現のためのメニューを充実させるなど支援体制を整備し、当該事業を持続可能な形で継続させていく必要がある。</p> <p>・オリパラ教育推進校での取組をオリパラ教育実施校(市立の全校)に、効果的に発信し、大会終了後も各校が継続的にオリパラ教育を実施していけるようノウハウを共有していく必要がある。</p> | ○    |
|      |                      |          |     |     |   | 教育委員会事務局    | 小中学校企画課    | 中学校部活動支援事業                         | <p>・部活動指導員の配置については、441人の目標に対し延べ741人を配置。</p> <p>・令和4年度地域運動部活動推進事業(休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究)について、国からの委託を受け市内3校6部活で実施。</p>  | <p>・部活動指導員については、人材の確保、研修の質の向上等が挙げられる。</p> <p>・地域移行の実践研究については、地域移行の複数モデルの創出や受益者負担の考え方(公的な負担との整理)等が挙げられる。</p>   | ◎    |
|      |                      |          |     |     |   | 教育委員会事務局    | 教育施設課      | 体育館空調設備設置事業                        | 令和4年度は24校に空調機を、9校に大型冷風扇を設置  | 工事単価が毎年上昇しており、予算の確保が課題  | ○    |

| 取組番号 | 取組名称         | 3つの目標への対 |     | 取組内容  | 所管    |           | 関連事業                        | 令和4年度取組状況  | 課題等  | 自己評価 |
|------|--------------|----------|-----|---|-------|-----------|-----------------------------|--|--|------|
|      |              | 健康増      | 共生社 |   | 賑わい   | 局         | 課                           |  |  |      |
| 5    | 高齢者向けスポーツの充実 | ○        | ○   | <p>スポーツ実施率の高い高齢者について、今後も継続してスポーツに取り組めるように、個々の健康状態、関心に応じて参加できる医療と連携した健康・体力づくり、フレイル予防、仲間づくりなどにつながるスポーツ教室などの通いの場等の充実と、参加しやすい仕組みづくりを行います。</p> <p>毎年各県で開催される「全国健康福祉祭（愛称：ねんりんピック）」に参加し、交流の輪を広げ、活力ある長寿社会づくりに貢献します。なお、令和4年度には、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市が主催となり、初めて神奈川県内で開催します。</p> | 健康福祉局 | 地域包括ケア推進課 | 地域づくり型介護予防事業（介護予防普及啓発事業）    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロコモ予防を目的とした講演会、イベント、健康教育等の実施<br/>実施回数：468回<br/>参加延べ人数：9,036人</li> <li>・横浜市広報ラジオ番組で「フレイル予防等について」の啓発：計3回</li> <li>・広報誌への高齢者の健康づくり・介護予防に関する記事掲載：計1回</li> <li>・ロコモ予防、フレイル予防、口腔機能の向上、栄養改善、認知症予防等の普及啓発（講演会等の開催、地域での出前講座の実施、啓発媒体の作成や配布等）を、感染対策に留意しながら、市域、区域（区役所）、包括圏域（地域包括支援センター等）において実施。</li> <li>・各区役所において、地域診断・事業計画書を健康づくり部門と共有し、区の健康課題等に応じて健康づくり・介護予防が連携した取組を検討・実施。</li> <li>【横浜ならではの地域資源を生かしたフレイル予防の取組推進】</li> <li>・有識者によるフレイル予防検討会の開催：計2回</li> </ul> <p>主な検討内容等：本市におけるフレイル予防普及啓発の具体的な展開方法、評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フレイル予防普及啓発媒体の作成</li> <li>・フレイル予防普及啓発のための人材育成研修 3回</li> <li>・フレイル予防講演会1回</li> <li>・民間企業と連携したフレイル予防のイベント 1回</li> </ul> | <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教室・講演会・イベント等の実施回数はコロナ禍前の水準には戻りきっていない。</p> <p>しかし、コロナ禍においても、感染対策に留意し、通常の集合型の普及啓発の手法に加えて、新たな手法も模索しながら市域・区域、包括圏域内で創意工夫をしながら普及啓発を実施し、徐々に実施回数は回復している。</p> <p>また、各区において健康づくり部門と連携した区全体の健康課題の共有及びロコモ予防、フレイル・オーラルフレイル予防、口腔機能の向上、栄養改善等共通するテーマでの普及啓発の取組等を検討・実施している。</p> <p>更に、2021年度から継続して、有識者によるフレイル予防検討会を開催し、横浜ならではの地域資源を生かしたフレイル予防の取組推進における具体的な展開方法や評価について検討を進めた。普及啓発媒体の作成や、人材育成研修、講演会、民間企業と連携したイベント開催等を行い、フレイル予防の推進を図った。</p> | ○    |
|      |              |          |     |   | 健康福祉局 | 地域包括ケア推進課 | 地域づくり型介護予防事業（元気づくりステーション事業） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気づくりステーション（身近な地域で主体的に介護予防に取り組むグループ）を立ち上げ、継続的に活動できるよう支援。</li> </ul> <p>参加実人数 7,249人<br/>参加延べ人数 109,342人<br/>内、要支援、要介護等認定者数 457人<br/>グループ数（令和5年3月末時点） 345グループ（新規立ち上げ15グループ）<br/>内、令和4年度活動休止グループ 6グループ</p>   | <p>コロナ禍で活動休止していたグループのほとんどが再開し、令和4年度活動実績がないグループは全体の2%（8グループ）になった。また、新たに15グループが活動を開始した。活動内容においても、運動（93%）、認知症予防（87%）を実施するグループだけではなく、口腔機能向上（48%）、栄養改善（27%）に取り組むなど、様々な活動を組み合わせて介護予防に取り組むグループが増えている。また、参加実人数（7,249人）のうち、6%（457人）の要介護、要支援等の認定者が参加しており、参加者個人の心身の状況に関わらず参加できるグループ活動が行えている。</p> <p>ただし、活動実施回数はコロナ前（令和元年度）よりも増加しているものの、参加実人数、参加延べ人数はコロナ前（令和元年度）よりも少なく、各グループの少人数化の傾向が見られている。</p>   | ○    |
|      |              |          |     |   | 健康福祉局 | 高齢健康福祉課   | 老人クラブ助成事業                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●シニアの祭典<br/>→令和5年3月15日に、横浜武道館で実施（参加者数：約1,600人）<br/>老人クラブの主な活動（健康・体力づくり、仲間づくり、地域づくり）の紹介を目的として開催し、老人クラブへの加入促進も兼ねて実施</li> <li>健康・体力づくり等に関するブースを設け実施（実施種目：ポッチャ、モルック、eスポーツ）</li> <li>●老人クラブの活性化や高齢者のフレイル予防を図るため「上を向いて歩こうキャンペーン」を実施<br/>→令和4年9月16日に、「上を向いて歩こうシニアウォーク」を実施（参加者数：564人）</li> </ul>  | <p>◎シニアの祭典</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般参加者の確保：周知・PR方法を検討する必要がある</li> </ul>   | ○    |

| 取組番号 | 取組名称                   | 3つの目標への対 |     |  | 取組内容  | 所管        |                   | 関連事業  | 令和4年度取組状況  | 課題等  | 自己評価 |
|------|------------------------|----------|-----|--|-------|-----------|-------------------|---|--|--|------|
|      |                        | 健康増      | 共生社 | 賑わい  |       | 局         | 課                 | 事業名称<br>(事業計画書上)  |  |  |      |
|      |                        |          |     |  |       | 健康福祉局     | 高齢健康福祉課           | 老人クラブ助成事業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●体操ひろ場(参加者：318クラブ 延参加者数：約15万人)</li> <li>●ゲートボール大会(参加者：16チーム)</li> <li>●グラウンド・ゴルフ大会(参加者：52人)</li> <li>●ベタンク大会(参加者：18チーム)</li> <li>●シニアスポーツ等の普及取組</li> <li>・シニアの祭典で、健康・体力づくりに関するブースを設け実施（実施種目：ポッチャ、モルック、eスポーツ）</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎体操ひろば</li> <li>・活動を継続するための開催日数、参加者数について検討する必要がある</li> <li>・活動場所の確保</li> <li>◎スポーツ大会</li> <li>・活動場所の確保</li> <li>◎シニアスポーツの普及</li> <li>・正しいルールやマナーへ理解を深めること</li> <li>・講習会種目の拡大</li> </ul> | ○    |
|      |                        |          |     |  |       | 健康福祉局     | 高齢健康福祉課           | 全国健康福祉祭参加事業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者を対象としたスポーツ交流大会、文化交流大会など、様々な福祉イベントを行う全国健康福祉祭に本市代表選手を派遣を行い、健康維持・増進、社会参加、生きがいつくりの促進をしました。</li> <li>（開催日：令和4年11月12日～15日、大会派遣種目数：29種目、派遣者数：387人）</li> <li>・令和4年度の「第34回全国健康福祉祭神奈川・横浜・川崎・相模原大会」（ねんりんピックかながわ2022）を開催し。地元開催であることを契機として、本市における高齢者の新たな生きがいつくりの促進を図りました。（本市開催種目等：開会式、サッカー、テニス）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>地元神奈川大会により、参加種目、参加人数とも拡大をしたところであるが、次年度以降の大会についても、引き続き多くの種目に参加できるよう、関係部署及び種目団体と調整をする必要があります。</li> </ul>  | ○    |
| 6    | スポーツに取り組むための身近な場の確保と充実 | ○        |     | <p>市民が身近な場でスポーツに取り組めるように、未利用地や米軍施設跡地などの活用、既存施設の統廃合や多目的化、民間企業との連携、市内大学施設の活用を進め、スポーツができる場の確保・充実を図ります。</p> <p>健康増進や外出意欲の向上につながる魅力的な歩行空間の整備や自転車通行空間の整備を進めます。</p> | 環境創造局 | みどりアップ推進課 | 公園整備事業（一部）        | 新横浜公園ほか8公園で施設改良工事、瀬谷本郷公園ほか3公園で新設・再整備工事を実施   | 本格的なスポーツ競技に対応した施設を備えた公園や、身近なところでスポーツを楽しむことができ、健康づくりができる公園などを整備する必要がある。   | ○  |      |
|      |                        |          |     |  | 道路局   | 企画課       | 健康みちづくり推進事業費      | 磯子区、戸塚区、栄区など6区6ルートでベンチ改修、舗装改修、歩道整備工事などを実施   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施計画の目標年度である2025年（令和7年）までに全ルートの整備完了</li> <li>・整備効果を高めるために、市民の利用を促進（区役所と連携しながら、ウォーキングイベントや広報を通じてルートの認知度を高める）</li> </ul>   | ○  |      |
|      |                        |          |     |  | 道路局   | 施設課       | 道路特別整備事業          | <ul style="list-style-type: none"> <li>●自転車ネットワーク路線</li> <li>・主要地方道山下本牧磯子線：1,460m</li> <li>・主要地方道環状4号線：420m</li> <li>●重点エリア</li> <li>・戸塚駅周辺地区：1,500m</li> </ul> | 整備を進めるにあたっては、地域の実情に応じて、関係機関との協議や地域との合意形成を図る必要があります。  | ○  |      |
|      |                        |          |     |  | 都市整備局 | 企画課       | 都市計画マスタープラン等の改定検討 | 目指すべき横浜の都市像の実現に向け、土地利用制度の戦略的な活用等を掲げた「都市計画マスタープラン」の改定検討に向けて、都市計画審議会への諮問及び改定小委員会を実施し、改定の基本的な方向性を検討した。   | 人口減少や少子高齢化の進展、デジタル分野の技術革新、環境負荷の提言など、社会的な要請への対応が求められる中で、郊外部における住宅市街地の住まい方や活性化策の検討、都心部における商業・業務機能の強化、観光・MICEの推進などを総合的に進め、あらゆる世代や企業から選ばれる都市の実現に向けて検討していく必要がある。  | ○  |      |

| 取組番号 | 取組名称                      | 3つの目標への対 |     | 取組内容   | 所管          |                 | 関連事業                            | 令和4年度取組状況  | 課題等   | 自己評価 |
|------|---------------------------|----------|-----|--|-------------|-----------------|---------------------------------|--|---|------|
|      |                           | 健康増      | 共生社 |  | 賑わい         | 局               | 課                               |  |   |      |
| 7    | 学校体育施設を活用した地域スポーツの場の確保と支援 | ○        |     | <p>学校体育施設（校庭・体育館等）を活用し、地域のスポーツ振興のため、総合型地域スポーツクラブや学校開放事業の運営主体である文化・スポーツクラブが子どもや地域住民を対象に実施するスポーツ教室等のプログラムを支援します。</p> <p>スポーツを行う場を確保するため、モデル事業として学校施設に夜間照明を設置します。</p>                                   | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課企画2      | 学校施設への夜間照明設置事業                  | 柏尾小学校に夜間照明を設置  | モデル事業の効果検証  | ○    |
|      |                           |          |     |  | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課・企画2・総務班 | 地域スポーツ支援事業<br>(総合型地域スポーツクラブ支援費) | <ul style="list-style-type: none"> <li>市内総合型地域スポーツクラブ設置数(令和5年4月現在) 設立済み:15区30クラブ、設立準備団体:1クラブ</li> <li>クラブ設立に向けた相談・アドバイスを実施</li> <li>横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の会議開催</li> <li>総合型地域スポーツクラブの普及啓発</li> </ul> 横浜市のホームページに総合型地域スポーツクラブの情報を掲載  | 横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の自立   | ○    |
|      |                           |          |     |  | 教育委員会事務局    | 学校支援・地域連携課      | 学校開放事業費                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育や部活動に支障のない範囲で、市立学校施設を地域の身近なレクリエーション活動、文化活動、スポーツ活動の場として、地域に開放しました。</li> </ul> 利用件数:174,312件<br>登録団体:7,063団体  | <ul style="list-style-type: none"> <li>活動場所の確保</li> <li>円滑なクラブ運営</li> </ul>   | ○    |
| 8    | 横浜市スポーツ医科学センター等との連携・活用    | ○        |     | <p>横浜市スポーツ医科学センターや市内のスポーツ・医科学系の大学等の知見を活用し、スポーツ医科学のエビデンスに基づいた市民の健康づくりを推進します。</p> <p>スポーツ事故の防止やスポーツ障害の予防・早期発見に関する知識の普及啓発を行います。</p> <p>トップスポーツチームに対しては、引き続き、医師や理学療法士の派遣、選手・スタッフへのメディカルサポートなどを実施します。</p> | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課企画1      | ジュニア競技力向上事業                     | 1 合同強化練習事業<br>ジュニア選手(小学校高学年から高校生を対象)が、市内各会場で合同強化練習を実施<br>参加者2,099人(15団体)<br>2 指導者技術向上事業<br>指導対象に応じて、安全で適切な指導ができる指導者を養成<br>参加者711人(13団体)  | 助成実施団体数及び参加者数について、増加が見られないため、スポーツ協会と調整を行いながら、新たな団体に参加を呼びかける等、事業展開の検討が必要です。  | ○    |
|      |                           |          |     |  | 健康福祉局       | 健康推進課           | スポーツ医科学センター運営事業                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ外来・リハビリテーションの利用者数は81,019人であり、前年度の70,563人を大幅に上回った。</li> <li>科学員、指導員、理学療法士、管理栄養士、放射線技師らが、講師となりそれぞれの専門的な観点から、健康・スポーツに関する市民や企業向けの講座・講演を実施した。</li> <li>トップスポーツチームや市立高等学校に対し、医師や理学療法士の派遣、選手・スタッフへのメディカルサポートなどを実施し、競技選手の競技力向上をサポートした。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>開設から20年以上が経過し、医療機器・測定機器等の老朽化が著しく進んでいる。今後も安全で正確な治療、測定と的確な運動指導を行い、市民、アスリートの信頼に添えていくために、機器類の更新を行い、市民の健康を支える施設としての機能強化に取り組んでいく必要がある。</li> <li>スポーツ版人間ドックの企業向けメニュー創設など企業の健康経営を支援するとともに参加者への健康保持・増進のためのフォロー事業(減量脂肪燃焼教室、筋力向上・姿勢改善教室など)の充実を図り、子どもから大人まで幅広い世代の運動支援・健康支援を実施し、健康横浜21で掲げる健康課題の改善に繋げる取り組みをより効果的に推進していく必要がある。</li> </ul> | ○    |
| 9    | 食育の推進                     | ○        |     | <p>健康な生活を送り、スポーツを活発に行うために、トップスポーツチームを含むスポーツ団体、教育委員会や食育関係団体と連携・協力しながら、子どもや保護者及び指導者等に食育の普及啓発を行います。</p>   | 健康福祉局       | 健康推進課           | 食育推進事業                          | (1)食育推進検討部会の開催<br>(7月22日・1月20日、委員15名:学識経験者・関係団体・民間事業者等)<br>(2)食育イベントの開催<br>よこはま朝食キャンペーンの開催(4月)   | 忙しい働く世代や子育て世代への効果的な食育推進、ライフスタイルに応じた食育の推進を行うための広報活動の工夫が必要です。   | ○    |
|      |                           |          |     |  | 教育委員会事務局    | 健康教育・食育課        | 市立学校食育推進事業費                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>食育推進研修会の実施(11月17日、18日 港南公会堂)</li> <li>食育実践推進校の指定<br/>新規(小学校3校、中学校3校)、継続(小学校4校、中学校4校、特別支援学校1校)</li> <li>出前授業の実施<br/>横浜F・マリノス食育教室:30回など</li> <li>栄養教諭を中核とした食育推進ネットワークの構築<br/>ネットワーク数:69</li> </ul>  | 食育推進ネットワークに入っていない中学校・高等学校に対する食育支援   | ○    |

| 取組番号 | 取組名称                     | 3つの目標への対 |     | 取組内容  | 所管  |   | 関連事業   | 令和4年度取組状況  | 課題等  | 自己評価 |
|------|--------------------------|----------|-----|---|-----|---|--|--|--|------|
|      |                          | 健康増      | 共生社 |   | 賑わい | 局 | 課  |  |  |      |
| 10   | 障害のある子どもがスポーツを楽しむ機会・場の充実 | ○        | ○   | <p>地域療育センターや特別支援学校と連携し、障害のある子どもが乳幼児期から学齢期まで切れ目なくスポーツを楽しむ機会を提供します。また、国が示す「障害があることを理由として、参加を希望するにもかかわらず体育の授業を見学する児童生徒をゼロとする」ことを目指し、市立学校における取組を推進していきます。</p> <p>トップアスリートやトップスポーツチームとの交流やイベント等を通じて、障害のある子どもが幼児期から運動に親しめる環境を整備します。</p> |     |   | <p>インクルーシブスポーツ推進事業<br/>(地域・イベント等におけるインクルーシブスポーツ推進事業)</p> | <p>ポッチャ等の簡単で誰でも楽しめる種目の体験会・交流会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年9月11日：なんぶベーす ばふおーまんすしょー (参加者数 552人)</li> <li>・令和4年10月9日：インクルーシブ陸上 (参加者数 168人)</li> <li>・令和5年2月4日：認知症カフェでのポッチャ体験会 (参加者数 20人)</li> <li>・令和5年2月25日：緑区ポッチャ交流会 (参加者数 25人)</li> <li>・令和5年3月5日：さわやかスポーツきずなまつり (参加者数 180人)</li> <li>・令和5年3月14日：ポッチャ交流会 (参加者数 40人)</li> <li>・令和5年3月19日：泉区さわやかスポーツ体験会 (参加者数 100人)</li> <li>・各区におけるインクルーシブ事業 (参加者数 942人：8区)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「横浜元気！！スポーツ・レクリエーションフェスティバル」事業の主催が本市に移ったことから、安全で効果的に実施すること</li> <li>・インクルーシブな視点を取り入れた企画の増加</li> </ul>  | ○    |
|      |                          |          |     |   |     |   | <p>障害者スポーツ文化センター管理運営事業</p>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学齢期の障害児を対象としたリハビリテーション・スポーツ教室等の実施</li> <li>肢体不自由児や知的・発達障害児を対象とした運動習慣のきっかけづくり等</li> <li>①横浜ラポール 64回 (567人参加)</li> <li>②ラポール上大岡 138回 (930人参加)</li> <li>・スポーツ・レクリエーション教室</li> <li>横浜市スポーツ協会と連携した知的障害者対象のサッカー教室等。</li> <li>①横浜ラポール 210回 (7,092人参加)</li> <li>②ラポール上大岡 73回 (1,299人参加)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域療育センターとの連携による幼児期の運動プログラムや評価法の開発、展開</li> <li>・運動習慣のきっかけを得た児が継続して運動やスポーツを行える環境の整備</li> <li>・障害者が身近な地域でスポーツに取り組める環境を整備するための関係機関連携</li> <li>・身近な地域のスポーツ体験イベントや教室、サークル等の情報収集と発信</li> </ul>  | ○    |
|      |                          |          |     |   |     |   | <p>【再掲】<br/>学校体育振興事業<br/>(オリンピック・パラリンピック教育関連経費)</p>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック・パラリンピック教育推進校として10校(小8、中1、高1)を設置し、年間を通して、オリパラ教育を重点的に実施した。学校によるパラスポーツの体験、パラリンピアンを講師として招へいする等して、オリパラ教育の普及に努めた。推進校だけでなく多くの学校にオリパラ教育を広げるために、報告書の共有を行い、市立学校における令和5年度以降のオリパラ教育の推進継続を図る。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリパラ教育推進校の負担を軽減するために、教育委員会事務局としても関係局課や関係団体等と連携して、推進校が活用可能なオリパラ教育実現のためのメニューを充実させるなど支援体制を整備し、当該事業を持続可能な形で継続させていく必要がある。</li> <li>・オリパラ教育推進校での取組をオリパラ教育実施校(市立の全校)に、効果的に発信し、大会終了後も各校が継続的にオリパラ教育を実施していけるようノウハウを共有していく必要がある。</li> </ul> | ○    |
|      |                          |          |     |   |     |   | —  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由のある児童生徒の授業や行事への参加支援の充実を図るため、肢体不自由のある児童生徒が在籍する小中学校、義務教育学校を対象とした「誰一人取り残さない」教育の実現に向けた研修を実施。</li> <li>参加 25校</li> <li>・市教育課程研究協議会の特別支援教育部会において、小中学校、義務教育学校を対象とした一般学級における特別支援教育部会を開催。</li> <li>参加 全校</li> <li>・市立特別支援学校施設を利用した実技体験(プール活動、ポッチャ)の実施。</li> <li>年1回</li> </ul>   | <p>対象となる児童生徒在籍校全校の研修参加が実現できていない。</p>   | ○    |

| 取組番号 | 取組名称       | 3つの目標への対 |    | 取組内容   | 所管          |  | 関連事業  | 令和4年度取組状況   | 課題等  | 自己評価 |
|------|------------|----------|----|--|-------------|--|---|---|--|------|
|      |            | 健康増進     | 共生 |  | 賑わい         | 局                                      | 課   |   |  |      |
| 11   | 障害者スポーツの推進 | ○        | ○  | <p>障害の特性や多様化する障害者スポーツのニーズ等に対応し、障害のある方が身近な場所でスポーツに取り組める環境を整えていくため、地域スポーツ・レクリエーション団体や市スポーツ協会、障害者スポーツ文化センター（横浜ラポール・ラポール上大岡）等が構築したネットワークや、東京2020大会のパートナー企業が有するノウハウなどをより一層活用していきます。</p> <p>各区のスポーツセンターへの障がい者スポーツ指導員の配置や、障害者スポーツの用具の充実・貸出等を進めます。</p> <p>横浜市障害者スポーツ大会（通称：ハマピック）等のイベント開催や定期的な障害者スポーツ教室の実施、障害者スポーツに関する情報発信の充実に取り組むなど、障害者スポーツを通じた障害への理解促進と障害者の社会参加を促進するとともに、地域や障害者とその家族同士の交流を深めます。</p> <p>市スポーツ協会の加盟競技団体等と連携し、全国障害者スポーツ大会に出場する横浜市代表選手の強化等に取り組んでいきます。</p> | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課企画1                             | インクルーシブスポーツ推進事業（パラスポーツ競技力向上）  | <p>横浜市スポーツ協会、横浜市リハビリテーション事業団及び各競技団体に協働してモデル事業などを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年10月～3月：インクルーシブ水泳教室（参加者数 25人）</li> <li>令和4年10月22日：パラ陸上タイムトライアル（参加者数 48人）</li> <li>令和5年1月29日：よこはまパラボウリング大会2022（参加者数 42人）</li> </ul>   | パラスポーツに関するノウハウの取得や、競技団体による自立的な事業実施への展開が課題であるため、スポーツ協会と調整を行いながら、事業展開の検討が必要です。   | ○    |
|      |            |          |    |  | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課企画1                             | 【再掲】インクルーシブスポーツ推進事業（地域・イベント等におけるインクルーシブスポーツ推進事業）  | <p>【再掲】</p> <p>ポッチャ等の簡単で誰でも楽しめる種目の体験会・交流会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年9月11日：なんぶベーす ぱふぉーまんすしょー（参加者数 552人）</li> <li>令和4年10月9日：インクルーシブ陸上（参加者数 168人）</li> <li>令和4年11月23日：インクルーシブスポーツフェスタ2022（雨天中止）</li> <li>令和5年2月4日：認知症カフェでのポッチャ体験会（参加者数 20人）</li> <li>令和5年2月25日：緑区ポッチャ交流会（参加者数 25人）</li> <li>令和5年3月5日：さわやかスポーツきずなまつり（参加者数 180人）</li> <li>令和5年3月14日：ポッチャ交流会（参加者数 40人）</li> <li>令和5年3月19日：泉区さわやかスポーツ体験会（参加者数 100人）</li> <li>18区におけるインクルーシブ事業（参加者数 942人：8区）</li> </ul> | 令和4年度開始事業であり、事業内容の確立が課題であるため、事業内容及び今後の予算の方向性を検討する必要があります。  | ○    |
|      |            |          |    |  | 健康福祉局       | 障害自立支援課                                | 障害者スポーツ文化センター管理運営事業   | <p>市内各地域への出張スポーツ指導・地域支援事業</p> <p>スポーツ教室やボランティア研修会の実施等、地域の様々なニーズに応える支援を実施。</p> <p>○横浜ラポール、ラポール上大岡合算 255回（2,062人参加）</p> <p>&lt;具体例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内スポーツセンターにポッチャシートを配布</li> <li>市内障害者福祉事業所、特別支援学校への支援を開始</li> <li>スポーツセンター職員や地域指導者への研修を実施</li> <li>地域の指導者を活用した障害者スポーツ支援の実施</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>障害者スポーツを支える指導者やボランティア、次世代を担う人材の確保と育成</li> <li>横浜市やスポーツ協会をはじめとした関係機関との連携による活動場所の確保・拡大</li> <li>スポーツ活動の拡充を目的としたプログラムや指導法の開発</li> <li>障害者スポーツの普及、活動支援に必要な情報の集約と効果的な発信</li> </ul>   | ○    |
|      |            |          |    |  | 健康福祉局       | 障害自立支援課                                | 障害者スポーツ文化センター管理運営事業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>障害者スポーツに関わる人材のすそ野を広げるための人材育成研修会の実施 10回（581人参加）</li> <li>地域への出張スポーツ指導・地域支援事業を通じて、各地域に障害者スポーツのノウハウを提供255回（2,062人参加）【再掲】</li> <li>ハマピック、スポーツフェスタの開催 12回（980人参加）</li> <li>全国障害者スポーツ大会強化練習の実施 40回（選手331人・スタッフ含め484人参加）</li> <li>運動の習慣化を目的としたスポーツプログラムの実施 269回（2367人参加）</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市スポーツ協会傘下の競技団体との連携強化</li> <li>多様な地域の関係団体と連携した障害者の活動を支援するボランティアの育成強化</li> <li>地域で活動する指導者の研修・情報共有の場づくり</li> <li>大学等との連携・協働による人材育成</li> <li>「競技力の向上」「自立した活動の定着」「スポーツの導入期」など、それぞれの局面で必要な支援を担う人材の育成強化</li> <li>同様の事業を積極的に行っているNPO団体や競技団体への協力</li> <li>障害の理解や、パラスポーツの情報を対面以外の形で伝えるコンテンツの整備</li> </ul> | ○    |
|      |            |          |    | にぎわいスポーツ文化局  | スポーツ振興課事業班  | インクルーシブスポーツ推進事業（パラリンピックを契機としたスポーツ振興事業） | <p>【学校訪問事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パラスポーツ学校訪問 25校</li> <li>インクルーシブスポーツ体験会</li> <li>ブラインドサッカー 1校</li> <li>車いすバスケ 3校</li> <li>ポッチャ 2校</li> <li>Baseball5 3校</li> <li>スポーツ義足体験 2校</li> <li>JOCオリンピック教室 1校</li> </ul> | インクルーシブスポーツ体験は募集枠に対して応募が多く、希望校全てに実施できていない   | ○  |      |

| 取組番号 | 取組名称            | 3つの目標への対 |      |     | 取組内容   | 所管          |            | 関連事業   | 令和4年度取組状況   | 課題等  | 自己評価 |
|------|-----------------|----------|------|-----|--|-------------|------------|--|---|--|------|
|      |                 | 健康増進     | 共生社会 | 賑わい |  | 局           | 課          | 事業名称<br>(事業計画書上)   |   |  |      |
| 12   | インクルーシブスポーツ等の推進 | ○        | ○    |     | <p>年齢や性別、障害の有無、国籍などに関わらず、誰もがともに楽しむことができるスポーツイベント・大会の開催やその支援を行うとともに、市スポーツ協会と社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団（ラポール）との連携協定に基づき、障害者団体、競技団体、地域団体が連携しながら、各区のスポーツセンター等、地域で誰もが楽しめるインクルーシブスポーツを推進します。</p> <p>パラリンピアンによる学校訪問や普及啓発イベントの開催、障害者スポーツ体験会等を継続します。</p> | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課企画1 | <p>【再掲】</p> <p>地域スポーツ支援事業<br/>(ヨコハマさわやかスポーツ)</p>                     | <p>【再掲】</p> <p>1 さわやかスポーツ普及活動<br/>(1) 地区活動 4,335回 79,886人参加<br/>(2) 区大会 34回 3,073人参加<br/>(3) 区フェスティバル 42回 11,511人参加<br/>(4) 講習会 25回 551人参加<br/>(5) 普及委員会 134回 1,494人参加<br/>(6) その他(用具貸出) 1,359回 70,682人参加<br/>計 5,929回 167,197人参加</p> <p>2 各区活動の支援<br/>一般奨励金188,000円/1区 を交付</p>   | <p>【再掲】</p> <p>さわやかスポーツ普及委員の担い手不足をきっかけとする、さわやかスポーツの今後の方向性について、SC指定管理事業との連携案を含めて具体的に検討段階にあります。</p>  | ○    |
|      |                 |          |      |     |  | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課企画1 | <p>【再掲】</p> <p>インクルーシブスポーツ推進事業<br/>(地域・イベント等におけるインクルーシブスポーツ推進事業)</p> | <p>【再掲】</p> <p>ポッチャ等の簡単で誰でも楽しめる種目の体験会・交流会を実施<br/>・令和4年9月11日：なんぶべーす ぱふぉーまんすしょー (参加者数 552人)<br/>・令和4年10月9日：インクルーシブ陸上 (参加者数 168人)<br/>・令和5年2月4日：認知症カフェでのポッチャ体験会 (参加者数 20人)<br/>・令和5年2月25日：緑区ポッチャ交流会 (参加者数 25人)<br/>・令和5年3月5日：さわやかスポーツきずなまつり (参加者数 180人)<br/>・令和5年3月14日：ポッチャ交流会 (参加者数 40人)<br/>・令和5年3月19日：泉区さわやかスポーツ体験会 (参加者数 100人)<br/>・各区におけるインクルーシブ事業 (参加者数 942人：8区)</p> <p>【学校訪問事業】</p> <p>・パラリンピアン学校訪問 25校<br/>・インクルーシブスポーツ体験会<br/>ブラインドサッカー 1校<br/>車いすバスケ 3校<br/>ポッチャ 2校<br/>Baseball5 3校<br/>スポーツ義足体験 2校<br/>・JOCオリンピック教室 1校</p> | <p>【学校訪問事業】</p> <p>インクルーシブスポーツ体験は募集枠に対して応募が多く、希望校全てに実施できていない</p>   | ○    |
|      |                 |          |      |     |  | 教育委員会事務局    | 小中学校企画課    | <p>【再掲】</p> <p>学校体育振興事業<br/>(オリンピック・パラリンピック教育関連経費)</p>               | <p>【再掲】</p> <p>・オリンピック・パラリンピック教育推進校として10校(小8、中1、高1)を設置し、年間を通して、オリパラ教育を重点的に実施した。学校によるパラスポーツの体験、パラリンピアンを講師として招へいする等して、オリパラ教育の普及に努めた。推進校だけでなく多くの学校にオリパラ教育を広げるために、報告書の共有を行い、市立学校における令和5年度以降のオリパラ教育の推進継続を図る。</p>   | <p>【再掲】</p> <p>・オリパラ教育推進校の負担を軽減するために、教育委員会事務局としても関係局課や関係団体等と連携して、推進校が活用可能なオリパラ教育実現のためのメニューを充実させるなど支援体制を整備し、当該事業を持続可能な形で継続させていく必要がある。<br/>・オリパラ教育推進校での取組をオリパラ教育実施校(市立の全校)に、効果的に発信し、大会終了後も各校が継続的にオリパラ教育を実施していけるようノウハウを共有していく必要がある。</p> | ○    |

| 取組番号 | 取組名称              | 3つの目標への対 |     | 取組内容   | 所管          |            | 関連事業  | 令和4年度取組状況  | 課題等  | 自己評価 |
|------|-------------------|----------|-----|--|-------------|------------|---|--|--|------|
|      |                   | 健康増      | 共生社 |  | 賑わい         | 局          | 課   |  |  |      |
| 13   | 地域スポーツ指導者の養成・活躍支援 | ○        | ○   | <p>地域のスポーツ活動で活躍できる人材を養成する「横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座」を実施し、スポーツ指導に関する基礎的な知識や技能を身につける機会とするとともに、体罰や暴力、その他不適切指導の根絶を目指します。また、同講座の修了者や現場で活躍している地域のスポーツ指導者に対しても、地域のニーズに応じた指導内容や方法などの研修を充実するとともに、ニーズに応じた指導者を紹介する人材活用システムの利用を促進します。</p> <p>障がい者スポーツ指導員養成講習会を開催するとともに、市スポーツ協会や障がい者スポーツ指導者協議会（通称：パセル）等と連携し、インクルーシブスポーツの体験会などを実施します。</p> | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課企画1 | <p>地域スポーツ支援事業<br/>(地域スポーツ人材養成・活用事業)</p>                           | <p>スポーツ・レクリエーション人材養成講座を開講するほか、スポーツ人材活用システムを運用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座を実施<br/>参加人数：237人<br/>(内訳) スポーツリーダー養成講座(83人)、集合講座(64人)、オンライン講座(90人)</li> <li>人材登録者活動実績<br/>指導回数：19,416、参加者数：362,756人、登録者数：177人</li> <li>横浜市スポーツ人材活用システム登録者研修会：1回実施<br/>参加人数：31人</li> </ul>  | <p>オンライン講座や協会の自主事業講座が増える中でのあり方検討や、人材活用の仕組みや機会の増強が課題であるため、スポーツ協会と調整を行いながら、事業手法の検討が必要です。</p> | ○    |
|      |                   |          |     |  |             |            | <p>【再掲】<br/>インクルーシブスポーツ推進事業<br/>(地域・イベント等におけるインクルーシブスポーツ推進事業)</p> | <p>【再掲】<br/>ポッチャ等の簡単で誰でも楽しめる種目の体験会・交流会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年9月11日：なんぶペーす ぱふぉーまんすしょー (参加者数 552人)</li> <li>令和4年10月9日：インクルーシブ陸上 (参加者数 168人)</li> <li>令和5年2月4日：認知症カフェでのポッチャ体験会 (参加者数 20人)</li> <li>令和5年2月25日：緑区ポッチャ交流会 (参加者数 25人)</li> <li>令和5年3月5日：さわやかスポーツきずなまつり (参加者数 180人)</li> <li>令和5年3月14日：ポッチャ交流会 (参加者数 40人)</li> <li>令和5年3月19日：泉区さわやかスポーツ体験会 (参加者数 100人)</li> <li>各区におけるインクルーシブ事業 (参加者数 942人：8区)</li> </ul> <p>【学校訪問事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パラスポーツ学校訪問 25校</li> <li>インクルーシブスポーツ体験会<br/>ブラインドサッカー 1校<br/>車いすバスケ 3校<br/>ポッチャ 2校<br/>Baseball5 3校<br/>スポーツ義足体験 2校</li> <li>JOCオリンピック教室 1校</li> </ul> | <p>【学校訪問事業】<br/>インクルーシブスポーツ体験は募集枠に対して応募が多く、希望校全てに実施できていない</p>                              | ○    |

| 取組番号 | 取組名称                           | 3つの目標への対 |     |     | 取組内容   | 所管          |            | 関連事業<br>事業名称<br>(事業計画書上)                       | 令和4年度取組状況   | 課題等   | 自己評価 |
|------|--------------------------------|----------|-----|-----|--|-------------|------------|--|---|---|------|
|      |                                | 健康増      | 共生社 | 賑わい |  | 局           | 課          |  |   |   |      |
| 14   | スポーツボランティアの育成・活躍支援             | ○        |     |     | 横浜市スポーツボランティアセンターを通じて、市内の大規模スポーツイベント等のボランティアの募集・登録や研修等の人材育成、啓発イベント等を開催するとともに、トップスポーツチームと連携して継続的にボランティア活動ができる場や機会を創出します。また、イベントを支えるチームの一員であるスポーツボランティアに対し、日ごろの活動への感謝を伝える取組を進めます。                    | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課企画2 | スポーツボランティア育成事業                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市スポーツボランティアセンター</li> <li>①登録者数 13,667人 (R5.3.31現在)</li> <li>②活動実績 スポーツボランティアシンポジウム (R5.2.5)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツボランティアセンター登録者の活動ニーズの把握</li> <li>ボランティア育成、モチベーションの維持</li> <li>人材システム（ボランティアシステムを含む）が複数存在することにより、スポーツ人材の把握が困難</li> </ul> | ○    |
| 15   | 総合型地域スポーツクラブの育成・活動支援及び連携・協働の推進 | ○        | ○   |     | <p>地域コミュニティの活性化に寄与する総合型地域スポーツクラブ、横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の運営を支援するとともに、新たなクラブの育成に取り組みます。</p> <p>広報や啓発イベント等を通じ、総合型地域スポーツクラブの認知度を向上させるとともに、総合型地域スポーツクラブと地域との連携強化を支援します。</p>                               | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課総務班 | <p>【再掲】</p> <p>地域スポーツ支援事業（総合型地域スポーツクラブ支援費）</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>市内総合型地域スポーツクラブ設置数（令和5年4月現在） 設立済み：15区30クラブ、設立準備団体：1クラブ</li> <li>クラブ設立に向けた相談・アドバイスを実施</li> <li>横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の会議開催</li> <li>総合型地域スポーツクラブの普及啓発</li> <li>横浜市のホームページに総合型地域スポーツクラブの情報を掲載</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の自立</li> </ul>   | ○    |
| 16   | スポーツ推進委員やスポーツ支援団体との連携・協働の推進    | ○        | ○   |     | <p>年齢や性別、障害の有無、国籍等に関係なく、誰でも気軽に身近な場所でスポーツを楽しむことができる環境を整えるため、スポーツ施設の職員や、スポーツ推進委員、スポーツボランティア、競技団体、地域団体、企業等に障害者スポーツ等に関する研修などへの参加を促し、障害等について理解し、インクルーシブスポーツを推進できる人材を育成します。また、スポーツ関係団体における女性参画に努めます。</p> | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課総務班 | スポーツ推進委員支援事業                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>各種研修会の開催、参加</li> <li>全国スポーツ推進委員研究協議会参加（11月）</li> <li>神奈川県スポーツ推進委員研修会参加（11月）</li> <li>五大都市スポーツ推進委員研究集会開催（12月）</li> <li>横浜市スポーツ推進委員大会開催（1月）</li> <li>神奈川県スポーツ推進委員大会参加（2月）</li> <li>スポーツリーダー養成講座受講助成（8名）</li> <li>地域の運動会や各種競技大会等の企画・運営</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>担い手不足、認知度向上</li> <li>自治会町内会の負担軽減の検討</li> </ul>   | ○    |
|      |                                |          |     |     |  |             |            | 【再掲】インクルーシブスポーツ推進事業（パラスポーツ競技力向上）               | <p>【再掲】</p> <p>横浜市スポーツ協会、横浜市リハビリテーション事業団及び各競技団体で協働してモデル事業などを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年10月～3月：インクルーシブ水泳教室（参加者数25人）</li> <li>令和4年10月22日：パラ陸上タイムトライアル（参加者数48人）</li> <li>令和5年1月29日：よこはまパラボウリング大会2022（参加者数42人）</li> </ul>  | <p>【再掲】</p> <p>パラスポーツに関するノウハウの取得や、競技団体による自立的な事業実施への展開が課題であるため、スポーツ協会と調整を行いながら、事業展開の検討が必要です。</p>   | ○    |

| 取組番号 | 取組名称                      | 3つの目標への対 |    |     | 取組内容  | 所管          |            | 関連事業   | 令和4年度取組状況  | 課題等   | 自己評価 |
|------|---------------------------|----------|----|-----|---|-------------|------------|--|--|---|------|
|      |                           | 健康増進     | 共生 | 賑わい |   | 局           | 課          | 事業名称<br>(事業計画書上)                                     |  |   |      |
| 17   | 多様な主体が利用しやすいスポーツの場の充実     | ○        | ○  |     | 子育て世代の親や、障害者、外国人など、多様な主体が有する特徴の制約を受けずに、利用しやすいスポーツの場を充実するため、託児サービスの活用やバリアフリー化、ユニバーサルデザインの推進、多言語・やさしい日本語への対応などについて検討します。また、多様な主体がスポーツ活動に参画し、地域とのつながりを築くことで、地域コミュニティの活性化を図ります。                     | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課企画1 | 子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業                                 | (新規事業のため該当なし)  | (新規事業のため該当なし)   |      |
|      |                           |          |    |     |   |             |            | 【再掲】インクルーシブスポーツ推進事業<br>(地域・イベント等におけるインクルーシブスポーツ推進事業) | 【再掲】<br>ポッチャ等の簡単で誰でも楽しめる種目の体験会・交流会を実施<br>・令和4年9月11日：なんぶペーす ぱふぉーまんすしょー (参加者数 552人)<br>・令和4年10月9日：インクルーシブ陸上 (参加者数 168人)<br>・令和4年11月23日：インクルーシブスポーツフェスタ2022 (雨天中止)<br>・令和5年2月4日：認知症カフェでのポッチャ体験会 (参加者数 20人)<br>・令和5年2月25日：緑区ポッチャ交流会 (参加者数 25人)<br>・令和5年3月5日：さわやかスポーツきずなまつり (参加者数 180人)<br>・令和5年3月14日：ポッチャ交流会 (参加者数 40人)<br>・令和5年3月19日：泉区さわやかスポーツ体験会 (参加者数 100人)<br>・18区におけるインクルーシブ事業 (参加者数 942人：8区)  | 令和4年度開始事業であり、事業内容の確立が課題であるため、事業内容及び今後の予算の方向性を検討する必要があります。                                 | ○    |
| 18   | トップスポーツチーム等と連携したスポーツの魅力発信 | ○        | ○  |     | 横浜スポーツパートナーズに参画しているトップスポーツチームと連携・協働することで、市内の会場で直接トップスポーツの試合を観戦する機会を充実します。<br>子どもたちをはじめ、多くの市民がトップアスリートと交流する機会を創出し、トップレベルに至るまでの経験談を聞いたり、一流の技術を目にしたることで、スポーツの魅力をより深く感じ、スポーツへの興味・関心を高め、実施率向上につなげます。 | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課事業班 | トップスポーツチーム連携事業                                       | 「横浜スポーツパートナーズ」に参画する全13チームと連携して、小学生を対象とした広報やイベントをはじめ、市の様々な事業に協力していただき、スポーツ振興や地域の活性化に向けた取組を進めた。<br>・小学生向け広報紙「ヨコハマスポーツタイムズ」の発行 (約177,000部発行)<br>・市外転入者の試合観戦招待事業「ようこそ横浜」のチラシ作成、区役所戸籍課の窓口での配付を横浜市が実施し、対象となるチームに転入者を試合へ招待いただいた。<br>・小学校体育副読本「たいいく」でのチーム紹介<br>・市役所1階の展示スペースにて、「横浜スポーツパートナーズパネル展」として13チームのユニフォームと選手写真を展示した。(R4年8月)<br>・教育委員会事務局生涯学習文化財課が主管する「子どもアドベンチャーカレッジ2022」にスポーツ振興課として出展し、チームスタッフから子どもたちに、普段の業務についてお話いただいた。<br>・「横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル2022」にて、各チームのスポーツ教室を実施し、合計399名が参加した。(R4年10月)<br>・「女性スポーツ応援DAY」にて、女子チームによる親子スポーツ教室を実施し、82名が参加した。(R5年3月) | ・現在13チーム参画している「横浜スポーツパートナーズ」との効果的な連携・協働の推進。<br>・今後、スポーツ推進とともににぎわい創出という観点からも取組を進めていく必要がある。 | ◎    |

| 取組番号 | 取組名称                  | 3つの目標への対 |      |     | 取組内容   | 所管          |            | 関連事業<br>事業名称<br>(事業計画書上) | 令和4年度取組状況   | 課題等  | 自己評価 |
|------|-----------------------|----------|------|-----|--|-------------|------------|--------------------------|---|--|------|
|      |                       | 健康増進     | 共生社会 | 賑わい |  | 局           | 課          |                          |   |  |      |
| 19   | 大規模スポーツ施設を中核とした賑わいづくり | ○        |      |     | <p>「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」に選定された横浜文化体育館再整備事業においては、横浜スタジアムや旧市庁舎跡地の取組と連携し、大規模スポーツ施設を中核としたまちづくりを進めます。また、大規模スポーツイベントの誘致・開催やトップスポーツチームとの連携を通じ、市民が一流のプレーを観戦する機会や、夢や感動を共有する機会を創出するとともに、集客促進や地域経済活性化を目指します。</p> <p>本牧市民プールを広く市民に親しまれる施設として再整備するほか、トップスポーツチームのホームアリーナを中心とした賑わいづくりなども推進します。</p> | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課施設班 | 横浜文化体育館再整備事業             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・(横浜武道館)維持管理・運営(通年)、Bリーグの試合開催</li> <li>・(横浜BUNTAI)施設建設工事開始(令和4年1月～)</li> </ul>   | <p>関内・関外エリア間の回遊性を高める必要がある。そのためには本市のイベント情報を共有の上、広報等で連携する。</p>   | ○    |
|      |                       |          |      |     |  | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課施設班 | 屋外プール再整備事業               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設建設工事開始(令和4年8月)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPC構成企業間の連携強化</li> <li>・施設整備工事の進捗管理</li> <li>・開業に向けた運用の精査など</li> </ul> | ○    |
|      |                       |          |      |     |  | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課事業班 | 観戦型スポーツイベント等開催事業         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第37回皇后盃全日本女子柔道選手権大会(4/17)@横浜武道館 509人</li> <li>・2022ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会(5/14-15)@山下公園 周辺特設会場 301,000人</li> <li>・日米対抗ソフトボール2022(8/8)@横浜スタジアム 12,655人</li> <li>・2022全日本ジュニア体操競技選手権大会(8/12-17)@横浜武道館 ※無観客開催</li> <li>・第39回全日本少年軟式野球大会(8/22-25)@横浜スタジアム 5,398人</li> <li>・2022ジャパンパラ水泳競技大会(9/17-19)@横浜国際プール 3,016人</li> <li>・天皇杯 JFA 第102回全日本サッカー選手権大会決勝戦(10/16)@日産スタジアム 37,998人</li> <li>・BADMINTON S/J LEAGUE 2022 横浜大会(12/11)@横浜武道館 2,115人</li> <li>・女子バスケットボール第24回Wリーグ横浜大会(1/21-22)@横浜武道館 2,464人</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・来訪者の市内回遊を促進するための仕掛けが必要。</li> </ul>                                     | ○    |
| 20   | 大規模スポーツイベントの誘致・開催支援   | ○        |      |     | <p>国際大会や全国大会などの大規模スポーツイベントを誘致し、市民のスポーツ観戦やボランティア活動の機会を増やします。イベントの開催を通じ、市内外へ向けて「スポーツ都市横浜」のブランディング強化と、世界や全国に向けて横浜の魅力を発信し、経済の活性化などにもつなげます。また、主催者と連携し、安全・安心な大会運営と、より快適に観戦できるよう取り組みます。</p>   | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課事業班 | 【再掲】観戦型スポーツイベント等開催事業     | <p>【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第37回皇后盃全日本女子柔道選手権大会(4/17)@横浜武道館 509人</li> <li>・2022ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会(5/14-15)@山下公園 周辺特設会場 301,000人</li> <li>・日米対抗ソフトボール2022(8/8)@横浜スタジアム 12,655人</li> <li>・2022全日本ジュニア体操競技選手権大会(8/12-17)@横浜武道館 ※無観客開催</li> <li>・第39回全日本少年軟式野球大会(8/22-25)@横浜スタジアム 5,398人</li> <li>・2022ジャパンパラ水泳競技大会(9/17-19)@横浜国際プール 3,016人</li> <li>・天皇杯 JFA 第102回全日本サッカー選手権大会決勝戦(10/16)@日産スタジアム 37,998人</li> <li>・BADMINTON S/J LEAGUE 2022 横浜大会(12/11)@横浜武道館 2,115人</li> <li>・女子バスケットボール第24回Wリーグ横浜大会(1/21-22)@横浜武道館 2,464人</li> </ul> | <p>【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来訪者の市内回遊を促進するための仕掛けが必要。</li> </ul>                         | ○    |

| 取組番号 | 取組名称 | 3つの目標への対 |      | 取組内容 | 所管          |            | 関連事業   | 令和4年度取組状況   | 課題等  | 自己評価 |
|------|------|----------|------|------|-------------|------------|--|---|--|------|
|      |      | 健康増進     | 共生社会 |      | 賑わい         | 局          | 課  |   |  |      |
|      |      |          |      |      | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課事業班 | 子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業・大規模スポーツイベント等開催支援事業(令和5年度)   | ※親子ラグビー教室・未就学児向けラグビー体験事業については「子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業」に記載。(シート10列目)<br><br>・小学校訪問事業 18校で実施。<br>・タグラグビー指導者講習会 新型コロナウイルス感染症の影響により中止。<br>・小学生ラグビー全国大会 小学生世代唯一のミニラグビー全国大会「ヒーローズカップ」を主催者と連携して日産フィールド小机、しんよこフットボールパークで1月28日、29日に開催した。<br>・ラグビーとの地域協創を推進する自治体連携協議会(通称:自治体ワンチーム)の総会を6月30日に開催。幹事自治体の追加や事業計画の承認等を行い、引き続きを日本ラグビーフットボール協会(JRFU)、ジャパンラグビーリーグワンと協力していくことを確認した。 | なし   | ○    |
|      |      |          |      |      | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課事業班 | 【仁川広域市国際交流事業】<br>新型コロナウイルス感染症の影響により小学生男子サッカー選手団受入延期<br>【台北市国際交流事業】<br>新型コロナウイルス感染症の影響により高校生女子バスケットボール選手団受入延期 | コロナ禍の解消後の事業再開にあたり、事業の在り方の検討が必要。   | △  |      |
|      |      |          |      |      | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課施設班 | スポーツ施設管理運営事業(横浜文化体育館の自主事業)   | 広場やプロムナードには、旧横浜文化体育館の歩み(イベント年表)を敷石に印字する計画を行うとともに、横浜BUNTAI西側のプロムナード沿いには、ピロティを持つ歩行者空間を形成し、そこに歴史展示のギャラリースペースを設けることで賑わいの創出を計画した。  | なし   | ○    |
|      |      |          |      |      | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課事業班 | スポーツ国際交流事業(英国国際交流公園・施設別管理運営事業(指定管理者移行)(ワールドカップスタジアムツアー(日産スタジアムの自主事業))  | ・英国トライアスロンチームへの応援ビデオメッセージ送付(5/11) 元街小学校6年生約100人   | 英国トライアスロンチームと市内小学生がオフラインで交流する際の日程調整が課題。  | △    |
|      |      |          |      |      | 環境創造局       | 公園緑地管理課    | 公園緑地管理課(ワールドカップスタジアムツアー(日産スタジアムの自主事業))   | ・令和4年4月より「Yokohama Final Stadium × 3 STADIUM TOURS」として、新ツアーを開始。<br>・事前予約制とし、1日あたり4回のツアーを設定。<br>【年間利用実績】開催日数:81日(324回)、参加者数:2,247人   | ・開催日程の確保<br>・ガイドボランティアの養成<br>・必要経費に見合った収益化(展示備品の更新、設備のメンテナンス費用等)<br>・スポーツツーリズムとしての確立 | ○    |

| 取組番号 | 取組名称                          | 3つの目標への対 |      |     | 取組内容  | 所管          |                    | 関連事業<br>事業名称<br>(事業計画書上) | 令和4年度取組状況  | 課題等   | 自己評価 |
|------|-------------------------------|----------|------|-----|---|-------------|--------------------|--------------------------|--|---|------|
|      |                               | 健康増進     | 共生社会 | 賑わい |   | 局           | 課                  |                          |  |   |      |
| 22   | 横浜マラソン・ワールドトライアスロンシリーズ横浜大会の実施 | ○        | ○    | ○   | 横浜マラソンを含め、プレイベントや区局と連携した横浜マラソンチャレンジ枠*等の関連イベントを継続的に実施し、市民の健康増進やスポーツ振興を図ります。さらに、大会参加者だけでなく、ボランティア、応援者など多くの来訪者や、オンラインマラソンに参加する人が増えることで、シティプロモーション効果や経済波及効果も期待できる「する」「みる」「ささえる」全ての人が楽しめる大会として実施します。 | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課トラマラ班       | 【再掲】横浜マラソン開催事業           | 横浜マラソン2022<br>開催期間：10月30日（日）<br>参加人数：人22,457人  | ・大会参加者の確保<br>・にぎわい創出の取組の推進、回遊性向上<br>・大会の魅力向上          | ○    |
|      |                               |          |      |     | 世界を転戦しながらポイントを獲得し、年間チャンピオンを決定するシリーズ戦で、オリンピックにつながる世界最高峰の大会である「ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会」を引き続き開催し、国際都市横浜、スポーツ都市横浜を国内外に発信します。  | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課トラマラ班       | 【再掲】観戦型スポーツイベント等開催事業     | ・2022ワールドトライアスロンシリーズ横浜大会開催（5月14～15日）   | ・効果的な大会広報及び参加者・観客へのシティセールス<br>・出場者、来場者増員の為の検討         | ○    |
| 23   | スポーツツーリズムの推進                  |          |      | ○   | 本市ならではのトップスポーツ環境や再整備された横浜武道館、観光資源などを組み合わせ、市内でスポーツと旅行・観光を楽しむ来訪者を増やし、地域・経済を活性化させるスポーツツーリズムを推進します。   | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課企画2         | 【再掲】観戦型スポーツイベント等開催事業     | スポーツツーリズムマーケティング調査の実施  | ・スポーツイベント等を目的とした来街者の市内回遊促進<br>・横浜の特性を生かしたスポーツツーリズムの促進 | ○    |
| 24   | スポーツ情報等の充実                    | ○        | ○    | ○   | 市民が「する」「みる」「ささえる」といったスポーツ活動に参加しやすくなるよう、スポーツイベントの開催情報や、スポーツ指導者、スポーツ施設の利用に関する情報等を、本市のホームページや広報紙、市スポーツ協会のスポーツ情報サイト「ハマスポ」、SNS等、多様なメディアを連動させ提供します。   | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課総務班・企画2・事業班 | スポーツ関係団体支援事業             | ・スポーツ情報サイト「ハマスポ」の運営<br>「ハマスポ」年間アクセス数 2,637,070件<br>・ハマスポSNS(Twitter、Facebook、Youtube)と連携した情報発信 | ・ウェブアクセシビリティ向上  | ○    |

| 取組番号 | 取組名称                   | 3つの目標への対 |     |     | 取組内容  | 所管          |            | 関連事業<br>事業名称<br>(事業計画書上) | 令和4年度取組状況   | 課題等                                   | 自己評価 |
|------|------------------------|----------|-----|-----|---|-------------|------------|--------------------------|---|---------------------------------------|------|
|      |                        | 健康増      | 共生社 | 賑わい |   | 局           | 課          |                          |   |                                       |      |
| 25   | 新たなスポーツの出会いの創出         | ○        | ○   | ○   | 東京2020大会を契機として注目されたアーバンスポーツや、デジタル技術を活用したスポーツの取組を充実し、従来にはなかった新たなスポーツとの出会い、またそのスポーツに触れて、取り組む機会を創出します。                     | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課企画2 | 【再掲】市民参加型スポーツ推進事業        | (新規事業のため該当なし)   | (新規事業のため該当なし)                         |      |
| 26   | ウォークラブルなまちづくりによる賑わいの創出 | ○        | ○   | ○   | 関内・関外地区について、居心地が良く歩きたくなる空間づくりを目指した社会実験の結果を踏まえた道路や公共空間の整備を進めます。また、多くの市民や本市に訪れた人が市内を楽しんで歩くことができるように、スポーツイベントと連携した取組を行います。 | にぎわいスポーツ文化局 | スポーツ振興課施設班 | -                        | 賑わい拠点となる広場を計画し、みなと大通りから横浜BUNTAI・横浜武道館に至る魅力的な歩行者景観を形成したプロムナードを計画した。  | なし                                    | ○    |
|      |                        |          |     |     |   | 都市整備局       | 都心再生課      | 関内・関外地区活性化推進事業           | 関内駅周辺地区では「国際的な産学連携」や「観光・集客」の実現に向けた大規模施設の立地が続き、来街者の増加による地区の更なる賑わい創出が期待されます。こうした大規模施設が面する「みなと大通り」及び「横浜文化体育館へのアクセス動線」において、歩行者の回遊性の向上や安全で快適な歩行者ネットワークの強化・拡充、地区の賑わい創出を図るため、①みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路の現歩道の再整備や②道路空間の活用に関する社会実験を実施しました。 | ・沿道住民や交通管理者等との合意形成<br>・道路活用を担う沿道組織の形成 | ○    |